

矢作川流域圏懇談会 公開講座

川がっなく 私たちの未来

～知らなかった山・川・里・海のつながり～



私たちの社会は本来「流域」が
ベースだったはずなのですが、この 100
年ほどの近代化の中で徐々に薄れてしまいました。

しかしながら現在でも水や土、栄養塩といった物質循環は流域が基本であり、
ジャーナリストの富山和子氏は 1970 年代からこのことを様々な著書で訴えてき
ました。私たちはもう一度、私たちが暮らす流域について見直す必要があると思います。

今回の講演では、日本の国土が森や水田を基盤として形作られてきたことを提唱した富山和子氏
の理論について、改めて、楽しみながらひもときます。また、世界各地で流域や、開発に関わる調査を
行ってきた経験から見出された、流域単位で思考することの意義をわかりやすく説明して頂きます。
そしてディスカッションでは、みんなで流域で生きることをもう一度考えたいと思います。

令和6年 **2月12日** 月祝 13:00～16:30

豊田市産業文化センター 多目的ホール
およびZOOMによるオンライン配信

定員150名

定員500名

参加費無料



申込
方法

以下の URL より参加申込をお願いいたします

会場参加: <https://forms.office.com/r/a6qQCsk75a>

オンライン参加: https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_rlZ9YtmiTBByO0ntLP4UtXA

申込期限: 令和6年1月31日(水) 17:00 まで

会場

オンライン



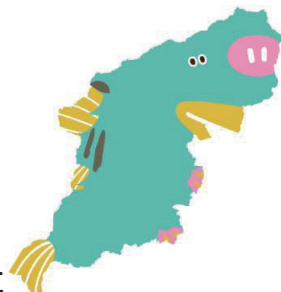
専用フォーム二次元コード

主催 矢作川流域圏懇談会

【お問合せ先】 運営業務受託業者 アジア航測株式会社 向井 E-mail: yki.mukai@ajiko.co.jp TEL: 070-4129-1331 (受付時間 10:00 ~ 17:00)

●プログラム

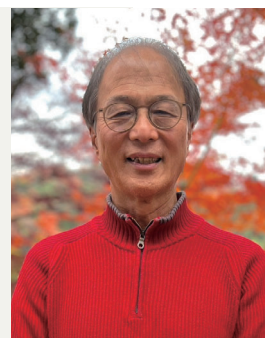
- 12:30～13:00 開場
 13:00～13:10 第1部 開会挨拶、趣旨説明
 13:10～13:50 第2部 基調講演I（講師：松沢孝晋）
 仮題）富山理論から「健全な流域圏」を考える
 13:50～14:30 第3部 基調講演II（講師：神田浩史）
 仮題）「流域思考」をわかりやすくつたえていくために
 14:30～14:45 休憩
 14:45～16:25 第4部 ディスカッション
 16:25～16:30 第5部 閉会挨拶



矢作川流域圏懇談会 HP では、参加組織や、過去の活動や成果、今後の課題などを掲載しております。

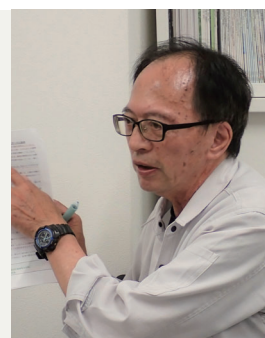
神田 浩史 氏 ひろし 所属：NPO法人泉京・垂井（副代表理事）

京都市出身。大学を卒業後、開発コンサルタント企業に勤務し、タンザニア、ナイジェリア、バングラデシュなどで ODA の農業開発事業に従事した。退職後は主に東南アジアの地域づくりの現場を調査研究し、日本政府の国際協力・ODA 政策の策定に関わった後、現在は揖斐川流域の循環型社会の再構築を提唱し、地域づくりに関わっている。



松沢 孝晋 氏 たかのぶ 所属：日本トンボ学会（総務幹事）・トンボ研究会（編集委員長） 三重昆虫談話会（会員）・四日市市エコパートナー 等

三重県菟野町出身。山口大学を卒業後、1982 年にアジア航測株式会社に入社し、自然環境を中心とした環境コンサルタント業務に従事。2019 年にフリーとなり、三重県四日市市にトンボ研究所を開設。東海地方や沖縄・東南アジアにおけるトンボ類の調査・研究、市民を対象とした環境講座等を行っている。



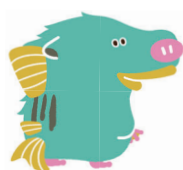
矢作川流域圏懇談会とは？

矢作川流域圏懇談会は山部会・川部会・海部会・市民部会で構成され、河川管理者だけでは解決できない課題に対して、流域一体となって取り組み、互いに連携し、いい川づくりと調和のとれた流域全体の発展につなげるための組織です。”流域は一つ、運命共同体”という共通認識のもと、治水、利水、環境、総合土砂管理、維持管理などの課題に対し、民・学・官の連携・協働で取り組んでいます。

「市民部会」からのメッセージ

本公開講座は、「市民部会」が計画しました。そもそも、我々懇談会員ですら「流域って何？」と聞かれたら、胸を張って答えられるでしょうか。本講座は、我々懇談会員自身も改めて流域に関する理解を深めたいと思います。我々と一緒に流域について考えてみましょう！

これまでの公開講座を
YouTube でご覧になれます。



矢作川流域のゆるキャラ はぎぼう

はぎぼうは、カエルの手とアユの口、ヒレをもつイノシシの子（うりぼう）。矢作川流域にすむ陸生、両生、水生の生き物を組み合わせ、流域の自然の豊かさを表しています。背中の模様は「川」の字。ふだんはぼーっとしているけれど、矢作川のこととなると鼻息をフンフンさせながら熱く語る矢作川オタクです。

